

A：安全で良質な水

水道水の安全性をより一層高め、良質な水道水を供給する

◆ 運営管理

(1) 水質管理

A101	平均残留塩素濃度 (mg/L)	給水栓での残留塩素濃度の平均値を示す。水道法上、給水栓の末端で0.1mg/L以上を満たす必要があるため、適切な濃度管理が重要となる。
A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率 (値, 項目名) (%)	給水栓水で、2 種類のカビ臭物質最大濃度の水質基準に対する割合 (%) をいう。水質基準値ぎりぎりであると100%、全くカビ臭物質が含まれないと0%になる。
A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率 (%)	給水栓水で、水質基準の値である3mg/L に対する最大有機物 (TOC) 濃度の割合 (%) を示す。一般的には、低い方が良い水とされる。
A105	重金属濃度水質基準比率 (値, 項目名) (%)	給水栓水で、水質基準に定める 6 種類の重金属の基準値に対するそれぞれの重金属最大濃度の割合 (%) を平均値で示す。この値は低い方がよい。
A106	無機物質濃度水質基準比率 (値, 項目名) (%)	給水栓水で、水質基準に定める 6 種類の無機物質の基準値に対するそれぞれの無機物質最大濃度の割合 (%) を平均値で示す。この値は低い方がよい。
A107	有機化学物質濃度水質基準比率 (値, 項目名) (%)	給水栓水で、水質基準に定める 9 種類の有機塩素化学物質の基準値に対するそれぞれの有機塩素化学物質最大濃度の割合 (%) を平均値で示す。この値は低い方がよい。
A109	農薬濃度水質管理目標比	給水栓水で、水質基準の値である各農薬の管理目標値に対するそれぞれの農薬最大濃度の割合 (%) を対象農薬数で除いたものである。農薬は種類が多いので、一種類ごとに算出せず、平均したもので示した。この値は低い方がよい。

(2) 施設管理

A201	原水水質監視度 (項目)	安全な水の供給には原水が安全であることが重要であるので、原水で何項目を調査しているかを示す。調査回数は月1 回以上とする。
A203	配水池清掃実施率 (%)	清掃した配水池容量の全配水池容量に対する割合 (%) を示す。5 年で全配水池を一巡するのを目標にしている。

(3) 事故災害対策

A301	水源の水質事故件数 (件)	年間の水源の有害物質 (油、化学物質の流出など) による水質汚染の回数を示す。この値は低い方がよい。この指標は、水道事業者の責任ではないが、重要なものである。
A302	粉末活性炭処理比率 (%)	粉末活性炭を投入した処理水量の年間割合 (%) を示す。活性炭は水質が悪化したときに用いられるので、原水水質の良し悪しの指標でもある。